

オアシス21 ハマナス療養棟

症 例 概 要 入所者：女性 60歳代後半 要介護度 4

病名： 脳梗塞の術後(令和4年8月)、心房細動、高血圧症、嚥下障害

夫と二人暮らし。夫は、退職し自宅にいて車の運転可能。長男は遠方に在住。

長女は近隣に在住。パートでシャトレーゼ(ガトキン内)勤務。

2022年7月中旬に構音障害と左下肢脱力を自覚しT病院へ救急搬送。広範な脳梗塞を認めた。2日後には頭部CTで脳ヘルニアを確認減圧開頭術施行。全失語、重度左麻痺で全介助状態で経管栄養管理となった。約1ヶ月後には出血性梗塞の所見を認め4日後には頭蓋形成術を施行、その約1ヶ月後にリハビリ目的で花川病院へ転院。

失語症が残存しているものの、身体機能は起居動作介助、座位保持見守り、起立軽～中度介助、立位保持は縦手すりを使用し壁にもたれる形で保持可能まで回復し、在宅復帰のリハビリ継続の為オアシスへ入所。

内 容

入所当初は交叉性失語があったせいか混乱してしまい、拒否が多く、帰宅欲求が強かった。入所当初はADL全てに介助が必要。排泄は下着交換だった。

まずは、施設生活に慣れていただくために、コミュニケーションカードをSTが作成。それを職員と確認しながら日課を過ごしていただき、運動面では、施設の装具を貸出し移乗時に足関節が内反しないようにすることができたので、リハビリでトイレでの排泄訓練を開始し、その後ケアスタッフが日常生活でトイレ使用を開始したが、自宅トイレを使用するには麻痺の関係で180度回転する必要があり、狭く介助が難しいと判断し、ポータブルトイレの練習をご本人に提案するが泣いて拒否。

他職種でカンファレンスを開き、どのようにしたらご本人が受け入れてくれるかを協議し、どうして嫌なのかご本人の考えを確認すると①臭いが気になる②場所が気になる③ポータブルトイレだと片付けをする必要があるとのことだったので、再度カンファレンスを開き、職員間で協議。広い車いす用トイレにポータブルトイレを置き、ポータブルトイレを使用することに慣れることから始めようとしたが、数回試みるが泣いて拒否するため中止。ご本人へ理由を確認すると、どうしてもご自宅のトイレを使用したいとのこと。

環境整備から行うこととし、居宅CMと福祉機器業者で自宅訪問し、トイレ改修検討したがご自宅の構造上難しく、座位確保のため、180度回転して便座に座る訓練をリハビリで開始したことでご本人が納

得し1歩前進。また、トイレの改修はできないまでも、居間にある押し入れをトイレ風に壁紙を改修し、そこにポータブルトイレをおいてはどうかと夫から提案があり採用。両方使えるように準備を進めることでご本人も納得され、日常生活でも、難しい介助だが排泄が安全に実施できるようなりハビリや動作を中心に訓練を実施。

退所前訪問にてご本人にも改修場所を確認していただき、試験外泊を行い、実際の動きを居宅CM、福祉機器業者と一緒に見て、追加で必要な福祉機器のレンタル手配。

外泊を何度か繰り返し、夫の負担だったことを相談員が聞き取りし、介護用品の紹介を行い負担を減らす工夫を行い、夫が介護に慣れるまで待ち、無事自宅へ退所することができた。

他職種で連携することでご利用者やご家族の不安に感じていることを1つ1つ解決し、笑顔で退所され、職員も頑張った甲斐のあった症例である。